

(様式1・小学校用①)

令和3年度 学校評価報告

草加市立川柳小学校

(令和4年2月1日作成)

1 学校教育目標 ・かしこく (進んで学ぶ子) ・なかよく (明るく思いやりのある子) ・たくましく (健康でたくましい子)	
2 重点目標・努力目標 目指す学校像：「子どもたち一人ひとりを大切にし、 笑顔と活気あふれる川柳小」 ・青柳中学校区「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」に関わる研究発表会に向け、校内研修の充実を図るとともに、中学校区内の連携を深め、発表に向けた準備を計画的に進めていく。 ・GIGAスクール構想に基づいて導入された一人一台端末「クロムブック」の活用を進め、授業内活用のための教職員のリテラシーを高めるとともに、児童に活用スキルを身につけさせる。	3 前年度の成果と課題 成果 ○チーム川小として、全教職員が協力して、感染拡大防止対策を踏まえた上での学校行事の見直しなど、児童の教育活動に当たる体制が確立できた。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した国語科授業づくりに向けて、中学校区で立案した共通の仮説に対応した、ユニバーサルデザインの視点を生かした手立てを講じて、授業改善に取り組むことができた。 課題 ●主体的・対話的で深い学びの実現を目指した国語科授業づくりでの手立てを他教科にも応用して、教員の授業力向上、児童の学力向上を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。 ○校務支援ソフト「校支援」を活用し、情報の一元化・共有化ができた。 ○学校行事や会議の精選など、校務改善を図った。教職員の在校時間も削減できている。 ●負担軽減と教育の充実が両輪の輪となるよう、更なる改善に努めていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○青柳中学校区研究発表への取組を通して、学習指導の改善に努めることができた。学ぶ喜びを味わわせ、自己有用感を高めるために「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業の創造」を本校の研修主題として実践を重ねてきた。「焦点化」「視覚化」「共有化」を取り入れた授業展開の工夫を進めてきた。 ●研究発表を一つの区切りとし、更なる授業改善と学力向上につなげるための校内研修を、新たに進めていきたい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○手指消毒の徹底、飛沫防止ボードの設置、検温等の感染拡大防止対策を確実に実施できた。 ○薬物乱用防止教室やCAP、救命救急研修等の安全に対する指導や研修を充実できた。 ●危機管理マニュアルの見直し及び徹底を今後も図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会を定期的実施したことで、教職員の事故防止に対する意識向上が図られた。 ●ICT活用が進んだことに伴う、著作権や肖像権といった新たな課題に対しても適切に対応できるよう研修を推進したい。

⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・学年・学級だよりの配付、定期的なホームページの更新、情報連絡システム「コドモン」を活用した家庭との連携、学校運営協議会の開催（5回）等を通して、家庭・地域に学校の様子を知らせることができた。 ●コロナ禍の中、学校へ保護者や地域の方を招くことが困難であった。状況に応じた対応方法で連携を継続させていきたい。
⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○青柳中学校区研究発表への取組を通して、目指す子ども像を共有し、共通の研究主題と仮説の下で連携を図ることができた。 ○小中連携乗り入れ授業を通して、中学校教諭に6年生児童を見てもらうことができ、小中接続の不安を軽減することができた。 ●コロナ禍で教職員同士の交流はなかなか進まなかった。今後、機会をもっていきたい。

(様式1・小学校用②)

草加市立川柳小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策を講じながら、形態を工夫して各種の学校行事を実施してきた。 ○短縮日課となった期間もあったが、オンライン学習を有効活用し、教育課程を確実に実施した。 ●今後も行事や日課等の見直しを通して、適切な授業時数を確保し教育目標の具現化に努める。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の「焦点化」「視覚化」「共有化」が、児童の深い学びにつながった。 ○クロムブックや大型テレビを活用した授業改善に努め、学習理解を深められた。 ●授業改善が児童の学力向上につながるよう、基礎基本が確実に定着するよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳教育推進教師を授業者に授業研究・研究協議を行ったことで、教職員全体の道徳科指導への理解が深まった。 ●授業計画や評価の見直し、家庭への啓発を図り、更に充実した道徳教育が行えるよう努める。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業者とALTとが連携を図り、充実した授業を行えた。 ○高学年では教科担任が授業者となり。専門性を生かした、質の高い授業を行えた。 ●授業計画や評価の見直しを行い、より確実な指導力を身につけていく。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○集会活動が難しい状況ではあったが、実施方法を工夫しながら1年生を送る会や児童集会などを行うことができた。 ○児童会活動では、各委員会が自ら課題を見つけ、より良い学校にするための活動に主体的に取り組むことができた。 ●児童の自主性を育むための指導の充実をより一層図っていく。

⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○ICT機器の活用が進み、学年・学級ごとに調べ学習や発表など、様々な場面で新たな利活用を行えた。</p> <p>●地域人材の活用が難しかった。年間指導計画の見直しを行い、活用方法を探っていく。</p>
⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導主任を中心に、全教職員が共通理解を図り、チームでの対応・情報共有及び積極的な生徒指導を充実させることができた。</p> <p>○いじめ重大事案に認められるものはなかった。</p> <p>●小中連携、関係機関との連携を進めながら継続的な指導を展開する。</p> <p>●不登校児童の減少に向けて組織的に対応にあたり、必要に応じて関係機関との連携を図る。</p>
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<p>○キャリアパスポートを活用し、家庭と連携しながら児童にふり返りをさせ、1年間の成長を確認できた。</p> <p>●各学年の実態に応じた活動計画になるよう、改善を図っていく。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○特別支援学級と通級活用児童には、個別の教育支援計画を作成し、適切に指導を行えた。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心に、就学相談や支援を計画的に行うことができた。</p> <p>●各学級に在籍する配慮を要する児童に対して、今後も指導体制の充実を図っていく。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	B	<p>○学校司書や中央図書館と連携を密にし、図書室の整備に努めることができた。23000冊貸出を目標にして、意欲的に読書へ取り組めた。</p> <p>○朝読書や、ボランティア・担任による読み聞かせ等を通して、読書に親しむ機会を設けられた。</p> <p>●家庭での読書習慣をもたせるなど、進んで読書をする姿勢を今後も育てていく。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<p>○クロムブックや大型テレビを活用した授業改善に努め、学習理解を深められた。</p> <p>○校内研修としてクロムブック研修を実施し、活用方法を学ぶとともに、教職員間で活用事例を共有した。各教科でICTを生かした授業づくりが進められている。</p> <p>○児童の活用も進み、調べ学習のみならず、スライド機能を使つての発表や、話し合いの中でのジャムボードの活用など、できることが広がってきている。</p> <p>●指導スキルの向上のため、更なる活用方法について情報共有を進める。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○人権研修会や出張報告を通じて、人権を尊重した教育の推進をした。</p> <p>●定期的な校内研修の充実を進めていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①青柳中学校区 研究発表に 向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表に向けた計画立案 ・教職員の共通理解・共通行動 ・地域や保護者、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研究発表会に向けて校内研修を充実させ、教師一人ひとりが、授業展開の工夫、学習指導の改善に努めることができた。 ○中学校区内の連携を深め、発表に向けた準備を計画的に進められた。 ●3校の連携を継続し、引き続き、目指す子ども像「自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒」の育成を進めていく。
	②ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・活用に向けた計画立案 ・教職員の共通理解・共通行動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○職員会議や打ち合わせ、朝会・集会といった場面でもオンライン接続を活用して、集合をせずに全員で関わりをもつことができた。 ○日頃からオンライン接続等で活用を重ねてきたノウハウが生き、研究発表会でも研究授業公開や分科会を滞りなく実施できた。 ●学校行事の中で更なる活用場面を探っていく。
	③保護者への 理解・協力への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・懇談会・個人面談等での意見 ・保護者アンケートの結果 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートの学校に関する項目では、学校への肯定的評価が96.1%であった。 ●今後も、理解を得られるような教育活動を行い、それらを発信していく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 学校経営目標や目指す学校像の実現に向けて、教職員一丸となって取り組むことができた。学校行事や会議の精選など、校務改善を図り、教職員の在校時間も削減できている。校務支援ソフト「校支援」の活用で、情報の一元化・共有化も進んでいる。
- 保護者や地域の方を招くのが難しかったり、学校行事の変更を余儀なくされたりしたところもあったが、ご理解とご協力をいただきながら、学校行事を進めてきた。また、各種たよりやホームページ等を通して、情報の発信に努めた。
- 青柳中学校区研究発表への取組を通して、中学校区内の連携を深め、発表に向けた準備を計画的に進めた。本校では「ユニバーサルデザインの視点を生かした授業の創造」を研修主題に学習指導の改善に努める、研究発表会に向けて、教師一人ひとりが、授業展開の工夫、学習指導の改善に努め「焦点化」「視覚化」「共有化」を取り入れた授業実践を進めた。
- 授業内・外でICT機器（クロムブック、大型テレビ等）の活用が進んだ。教職員は各教科でICTを生かした授業づくりのため、活用方法の習得、活用事例の共有に取り組んだ。児童は調べ学習、スライド機能を使った発表や、話し合いの中でのジャムボードの活用など、できることが広がってきた。
- 生徒指導では、主任を中心に、全教職員が共通理解を図り、チームでの対応・情報共有及び積極的な生徒指導を充実させることができた。
- 特別支援教育では、コーディネーターを中心に、配慮を要する児童に対し就学相談や支援を計画的に行うことができた。特別支援学級及び通級活用児童には、個別の教育支援計画を作成し、適切に指導を行えた。

6 次年度の改善策

- 引き続きのコロナ禍で、本来の学校行事や教育活動等に取り組めないことがあることも予想されるが、児童の学びが止まることのないよう、適切な教育計画の作成、確実な教育活動の実施を、全教職員一丸となって取り組んでいく。また、保護者や地域との連携方法についても模索していく。
- 研究発表を一つの区切りとして、新たな校内研修に取り組んでいく。児童に基礎基本が確実に定着し、学力向上につながるよう、教師一人ひとりの更なる指導力向上を図っていく。
- 3校の連携を継続し、引き続き、目指す子ども像「自ら学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒」の育成を進められるよう、連絡を密にしていく。
- 学習にふさわしい教育環境の維持のため、問題行動のある児童や配慮を要する児童に対して、生徒指導主任、教育相談主任、特別支援コーディネーターを中心に、学校全体で対応にあたる。
- 不登校児童を減少させるための担任との信頼関係づくりをサポートできるよう、組織的に対応にあたるとともに、必要に応じて関係機関との連携を図る。